

西光寺だより

第三十号 平成二五年 二月一日発行

まだまだ寒い日が続き、春の訪れが待ち遠しい頃となりました。

二月は暦の上では立春となりますが、ときおり吹く風の冷たさはまだ肌身に沁みいるものがありますね。

そんなとき、ふと口ずさんでしまいたくなる唄があります。

「春は名のみの風の寒さや 谷の鶯（うぐいす） 歌は思えど

時にあらずと声も立てず 時にあらずと声も立てず」

大正二年に作られた「早春賦」という童謡です。春を待ちわびる思いが綴られた唄ですが、この歌詞を見てほとんどの方が口ずさむことが出来るのではないかと思います。日本には四季がありますが、それぞれの季節にぴったりと寄り添う唄がこの国にはたくさんありますね。

先日、ハーモニカ奏者でもあり、童謡の普及に努めていらつしやる「もり・けん」さんという方のお話を聞かせていただく機会がありました。もりさんは、すべての世代と一緒に歌える歌として童謡が親から子へ子から孫へ受け継いでいく日本の大切な文化遺産だと仰られています。童謡は、その優しい心とともに日本の文化、風情、心などを伝えていると。そして、童謡が伝える優しい心は、胎児のときから人が一生を終える直前まで全ての人の脳内に沁み込んでいくものであると。

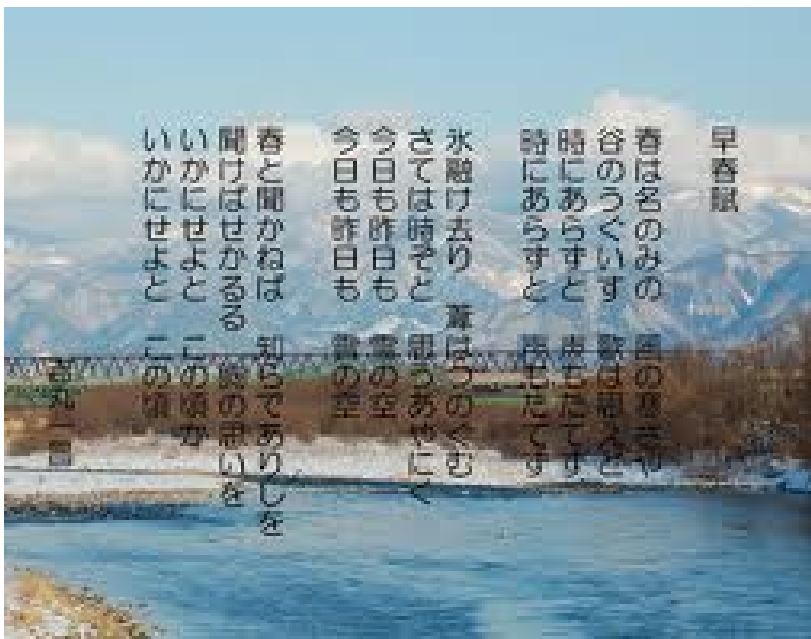
知らず知らずのうちに覚えていた童謡は、きっと祖父母や父母が、まだ母の胎内にいた頃から歌っていてくれたものだったのでしようね。皆様も童謡を聞くと、思わず口ずさんでしまう唄がいくつかはあるのではないかと思います。そして、それはどこか懐かしくあたたかい思いを併せもった唄ではないでしょうか。

近年、童謡を歌う親が少なくなり、子供へ伝えていくことが出来な

くくなっているといわれています。それは、お寺においても同じことがいえます。近年、お念仏を口ずさめる子供たちがどれほどいるでしょうか。

子や孫に、もっと先の世代に伝え続けていきたいこと。それぞれの分野において、伝えたい物事は違えども、伝えたいことはただひとつ、「心」を育んでいくものではないかと思えます。

思いやりの「心」、豊かな「心」、そして、慈しみの「心」をわたくしたちも伝え続けていきたいと思っております。



● 今月のことば ●

◎ 浄土真宗の葬儀に関する知識

浄土真宗の葬儀で注意する言葉についてお逮夜の際にご門徒の方から質問がありましたのでこの度西光寺だよりに載せて、すでに知っておられる方もそうでない方も葬儀についての言葉の使い方参考にして頂けたらと思います。

| 不適切な言葉 | 適切な言葉 |
|------------|-----------|
| 御霊前 | 御佛前・御尊前 |
| いのる | 念ずる |
| 冥福を祈る | 哀悼の意を表する |
| 戒名 | 法名 |
| 霊・み魂 | 故人 |
| 回向をたまわる | 読経・お勤め頂く |
| 安らかにお眠り下さい | 私達をお導き下さい |
| 天国に召される | お浄土に往生する |
| 幽明境を異にする | み佛の国に生まれる |
| 草場の陰での冥土 | お浄土で |
| 喪主 | 施主・遺族代表者 |
| 追善供養 | 追悼法要 |
| 黙念・黙禱 | 合掌・礼拝 |
| 告別式 | 葬儀 |

既にご存じの方も多いと思いますが、仏教でも浄土真宗でも故人の冥福を祈りません。これは亡くなられた方は、冥土（冥途）へ迷い込んだということの意味し、お浄土の故人を侮辱する心無い表現と言えます。

浄土真宗の弔電の文例

- ・ご遺徳を偲び、哀悼の意を表します。
- ・〇〇様のご逝去を悼み、慎んでお悔やみ申し上げます。
- ・今はただ心静かにお念仏させていただくばかりです。
- ・〇〇様のご逝去なされたと聞き、深い悲しみに沈んでおります。在りし日の姿を思い、お念仏申し上げます。

また法要や仏前の儀式・葬儀などできるだけ門徒式章をお持ちの方は襟にかけて参拝させていただきましょう。門徒式章をかけ、お念珠を持つことが、浄土真宗本願寺派の「門信徒における正式な服装」と定められています。僧侶が法要儀式を勤めるため仏さまの前に出る時、法衣・袈裟で正装するのと同様、仏さまの前に出る時の正装に門徒式章を用います。門徒式章を身に着けることによりしっかり聴聞しようという気持ちになればとても尊いことだと思えます。そして門徒式章はお念珠やお経本と同様に大切な法具ですから常に丁寧に扱い、床や歩行の場所に直接置いたり、門徒式章をかけたまま、トイレなどに行かないよう心がけましょう。

合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>